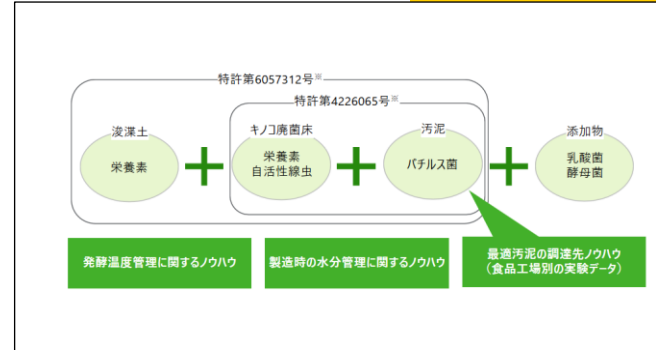


企業名	株式会社里源	金融機関名	アイオー信用金庫
-----	--------	-------	----------

知財・事業の概要および知財ビジネス報告書作成の目的	製造業	特許・ノウハウ
池やダムの底泥を回収し、安全な土壌改良材へと再生、販売する事業をメインとしている。当該事業やその他の事業で環境問題を解決することを目指している中小企業である 報告書を作成することで公害や農業生産(土壌)、環境保全等の課題を解決する能力のある企業であることを周知し、企業価値を高め、金融機関や新たな取引先の開拓につなげたい		



知財ビジネス報告書への記載概要

過去～現在 (As-Is)	知的財産（強み・壁）をいかにして生み出し、安定した事業に貢献しているかについてストーリー化する	池やダム等の管理上必要となる底泥浚渫（しゅんせつ）にて回収した底泥や食品工場等から回収した汚泥をキノコの廃菌床と混ぜ、発酵させることで線虫の働きを活用した土壌改良材を製造している。底泥資源化工法、土壌改良材・肥料製造のいずれにおいても青井教授と開発した特許やノウハウを活用しており、当事業により安定した収益・利益を獲得している
	将来像の実現に向けた課題およびその解決の方向性（事業構想）を明確化する	これまでは園芸用を中心として販路を開拓してきたが、規模拡大のためにはより大きな効果の期待できる農業用へ販売することが必須である。農家に販売するためには農家にまず製品を認知してもらい、良さを知ってもらう必要がある。そのためには販促物の作成、それに伴う対外的に公表しやすい実績作り、パッケージ変更等のブランディング化を進めると同時に、特許情報を活用してライセンスを進める
現在～将来 (To-Be)	将来像の実現に向けた実行計画をストーリー化する	当案件では対象外

アイオー信用金庫からの評価結果

知財ビジネス報告書 を通じて認識した強み	改めて認識した点	当社が浚渫工事にて収集、採取した有機廃棄物を自社工場で製造している商材は、独占的市場への販売または規制緩和がなされれば、農業生産物の栽培が向上されることが期待できる事が、改めて認識することができた。
	新たに認識した点	応募企業が所有する知財、技術力や専門家との連携は、環境整備や生態系保全にも寄与・貢献しているなど、定量面もあるが、定性面での企業評価がある企業として、新たに強みとして認識することができた。
知財ビジネス報告書 を通じて認識した課題	改めて認識した点	有機廃棄物を採取し、農業用資材に製造、販売している商材の販売促進の強化が必要である旨を改めて認識できた。
	新たに認識した点	浚渫資源化工事工法における、技術工法の暗黙知になっている面を顕在化(マニュアル、知財化)していない事が課題であると認識できた。
将来のビジネス展開に 向け金融機関として サポートできる点	■ 当金庫主催としている、アイオーフォームのイベントに参加して新たな販路開拓や、よいお仕事ネットワーク、中小企業整備機構（ジェグテック）、しんきんコネクトを利用していただく事等。 ■ 自社工場の拡張や新規取得する際における、保証協会制度を利用した融資等のファイナンス支援の検討。	

里源社からのコメント

知財ビジネス報告書の作成を通じて得られた 新たな気づきがあったか	弊社の取り組みと事業性を改めて客観的に整理することができた。 漠然とした事業の方向性を正し、現実的な事業目標を立てることができる。
知財ビジネス報告書をどう活用できそうか	今後の課題も明らかになり、事業計画・事業目標を明確にし活用できる。 課題解決の方向性に沿って事業を進めていく